

新宿区産業振興会議 専門部会「施設」実施報告

【日 時】 平成24年11月19日（月） 午後3時～5時

【場 所】 産業会館（BIZ新宿） 研修室C

【出席者】 委員：植田浩史、川名和美、渡邊裕晃各委員

事務局：中川産業振興課長、荒井産業振興係長、久野主任主事、後藤産業創造プランナー

オブザーバー：志村一夫、奥山龍一委員

【内 容】

1 開 会

2 産業会館（BIZ新宿） 館内見学

事務局の案内により、館内の各施設を見学した。

3 産業会館（BIZ新宿）の現状と課題

事務局より、産業会館の活用の現状と課題を説明した。

4 意見交換（主な発言内容）

産業会館の目的

- ・ 産業会館の目的をはっきりさせ、産業に向けたものにするのか、一般的なものまで広げるのか、方向性を定めて運営する必要があるのではないか。
- ・ この産業会館をどういう場所として考えていくのかをはっきりさせていかなければいけない。いろいろな人が出入りをして、「人がいるところから、何か新しいものが生まれていく」という場にするというのも一つの考え方である。または基本的に今までのスタンスを守りながら、産業振興の場として、企業の人たちがいろいろな形で産業会館を使いながら、結果的に新宿の産業振興に貢献できるように、もっとアクティブに活用していくという考え方もある。

活用の方向性

- ・ 産業振興のために使う場合、高い稼働率はなかなか望めない。いまより高くするという目標はいいが、100%に近い形になることはないので、その点は覚悟しなければいけないと思う。誰でも会館に入れるようにするのであれば、セキュリティの問題というはあるが、目的外使用についてしっかり考えていかなければならないと思う。まずそこをどうするのかということではないか。
- ・ もっと広く新宿の人に使ってもらおうということは、産業振興基本条例の理念と同じだと思う。中小企業を基準に考え、中小企業で働く人のことを理解して、中小企業の大切さを知ってもらおうというのが、条例の意味だと思う。より広く考えることはすごく大事なのではないか。
- ・ イベントを考える際に、単なる中小企業者の展示会ではなく、一般の消費者が参加するものが、最終的には中小企業者に還元していくものになればよいと思う。一見一般の人たちの楽しいイベントに見えても、最終的には中小企業の振興につながっていけばよいのではないか。
- ・ 稼働率は忙しいときとそうでないときで変動や、季節の需要で違いがあるも思う。そういうものを平均していくにはいろいろな人が出入りした方がいい。企業の展示パネルというのは、産業関係以外の人に見てもらった方がいいと思う。新宿区はどのような区なのか、どんな企業があるのか、一般の人に一番見てほしいので、そういう人たちに来てもらおうという展開を考え、複合施設のような要素を取り入れてもいいのではないか。
- ・ 「人が集まる」という仕掛けが必要である。会館の活用事例や、区のいろいろな産業を直接伝えられる場として、産業会館をPRできるといい。
- ・ 高田馬場創業支援センターは、同じ建物内に消費者センターがあり地域のいろいろな人が出入りしている。地域の人たちに新宿区の産業を見てもらおう場としてはおもしろいと思う。
- ・ 区が直営で運営していくのであれば、区が運営しやすいものを作っていくことが必要だと思う。

販売行為

- ・ 他区の施設でも、販売を認めているところもある。利用する中小企業にとって、販売ができないというのは使い勝手が悪いのではないかと。
- ・ もし稼働率を上げるのであれば、販売を認めることも考えなければならぬ。その方が会館を有効に活用できるのではないかと。
- ・ 物品販売の目的で貸すのか、物品販売が主目的ではなく、その中に販売が含まれるものであればよしとするのか、そこをどうとらえるのか検討が必要である。
- ・ 販売行為のトラブルを回避するために、利用者の身元をしっかりと把握するしくみを考えてはどうか。

飲食行為

- ・ 飲食禁止というのは時代に逆行していると思う。最近は会議の後に飲食を伴うことが多く、そのような場で議論する形が増えているし、企業はそのようなパーティでお互い知りあうということが大事で、飲食を通してネットワークを広げていくということがあるので、飲食行為の禁止をどうするのか考えた方がいいのではないかと。

予約方法

- ・ 電話でしか予約状況の確認や予約ができないというのは非常に不便である。予約方法の改善を考えたほうがいい。
- ・ 予約状況だけでもインターネットで把握できるというのは必要だと思う。電話をすると予約しなくてはいけなような気がする。利用者はネット上でいくつかの施設を比較・検討するということが多いのではないかと。

フリースペースの設置

- ・ 最近の産業関連施設をみると、フリースペースを設けているところが多い。インターネットをつなぐことができ、テーブルと椅子があり、カフェや飲み物の自動販売機があると、人が集まってきて賑わうのではないかと。人が集まれば、ここにある会議室も認知されるのではないかと。
- ・ この会館にはひと気が無くもったいないと思う。中小企業や個人事業者など、小さなオフィスに勤めている人が、会議の会場としてではなく、お茶を飲みながらミーティングをするようなケースがあるのではないかと。
- ・ 人が交流する場、それも意図的ではなく自然に交流する場というのは、都市型の施設には必要ではないかと。

戦略的な利用について

- ・ 多目的ホールの活用例として、求人活動やビジネスアイデアのマッチング会などを開催すると、人が多く集まるのではないかと。
- ・ 他区の経営者が新宿区に来て、工場見学などをした後、産業会館で交流会を開くようなことができると、この施設もうまく活用できるのではないかと。
- ・ 大学の学生と中小企業の経営者の方との交流会、ただ就職だけではなくて、現場を学ぶというワークショップを開催してはどうか。
- ・ 実験的にワンフロワーだけ民間に託してみる形で、より良い活用ができないかを模索するのも一つのやり方ではないかと思う。
- ・ 新宿区、あるいは新宿区だけでなく商工会議所等と一緒に、産業会館を新宿区と外との交流の場やイベントの場、情報発信の場という形で位置づけられるイベントをどれだけ実施するかが大事である。そのようなイベントを実施して会館を積極的に活用していけば、「この施設を、こういうことで活用ができる」ということを、企業や経済団体が認識して、情報が広がっていくのではないかと思う。
- ・ 産業振興課の職員と話してみるといろいろなアイデアを持っているようなので、“BIZの日”というものをつくって、イベントを開催してみてもどうか。
- ・ 敷地の共有部分である中庭に、ランチタイムに屋台を集積させてお弁当などを販売すると、新宿の産業振興や創業支援にもつながるのではないかと。